

こあいさつ

部長

日の光、雲のようすには春らしい感じが感じられ、心までうきうきと思いがする今日、私たちのコンサートにおこしください、ありがとうございます。短い時間ですが、このひとときを皆さまと共に過ごせることを部員一同とても嬉しく思います。

今年もとても充実した1年間となりました。学校行事の体育祭や文化学習発表会での演奏、毎年恒例となった「天王台ふれあい夏まつり」での演奏はもちろん、今年は例年以上にアンサンブルでの活動も多くなり、個々の音をたくさんの皆様にお届けすることができました。

そして私たちは数年前から福祉施設等で、日ごろ生の音楽を聴くことができないお年寄りの皆さんにぜひ私たちの生演奏をお届けできたという思いがありました。去年までなかなか実現することができなかったのですが、今年度は福祉フェスティバルや介護老人保健施設エスペーロから演奏のご依頼をいただき、その思いを実現させることができました。

その他、毎年恒例となった地元天王台地区のふれあい夏祭りや市民祭り、Enjoy手賀沼、我孫子駅前のフリーザザールなどのほか、スポーツ少年団野球交流大会での入場行進と開会セレモニー、手賀沼エコマラソンでのボランティア応援演奏など、とても幅広い方面にわたって演奏させていただくことができました。

また、私たちは日々の練習を通して仲間の大切さや仲間を思いやる気持ちなど、かながえのない大切なこともたくさん学ぶことができました。音楽を通じてこんなに多くの経験ができるのも、演奏をするたびに周りを開いて暖かい拍手をくださるお客様、そしていつも私たちを支えてくれた家族がいてくれたからだと痛感しています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。皆さまの支えがあるから今の私たちがあるのだと深く心に刻み、今日はこの感謝の気持ちを音にして、皆さまの心にお届けできればと思います。

どうか最後までごゆっくりとお楽しみください。

交響詩「フィンランディア」(シベリウス)

4日前に柏のホールで小学生20名と一緒に演奏した「天王台あおぞらバンド」2007の演奏曲で開幕です。序奏から前半はロシアの狂歌に苦しみ悲劇時代の描写、そして第二の国歌ともいえるべきスオミの歌(フィンランド賛歌=賛美歌にもなっているそうです)が胸々と歌われ、やがて独立を勝ちとっていくという前向きな構成で、私たちは圧倒させられ、深く感動しました。森と湖とムーミンの国・フィンランド、いつか行ってみたい国ですね。

歌劇「イーゴリ公」序曲(ボロディン)

ロシアの歴史ペクタルクとして「ダツタン人の踊り」でもとても有名な歌劇「イーゴリ公」。実はこのオペラの完成以前に作曲家ボロディンはこの世を去り彼の草稿をもとに友人の作曲家グラスフらが実質的に作曲したのでそうです。今日演奏する楽劇は私たち孫子中バンドの大先生・齋藤 行先生の編曲です。きらめく叙情的旋律は私たちの心に永遠に残っていくでしょう。

ただ憧れを知る者のみ(チャイコフスキー)

第3回春コンにて演奏したこの曲の再演にあたって、ソプラノ・吉田真澄さんの歌を加えました。チャイコフスキーの歌曲で最も有名なこの歌の理解ができるよう、真澄さんは私たちに熱く話してくれました。「私の愛する人は遠い彼方にいる…」と語り真澄さんの瞳は、いつの日か出会う運命の人の姿を思い描いているかのようにして。秘めたこのあまりない涙は心にほろほろと降り注ぎ、この歌の美しさや深さがだんだんわかってくるようです。

歌劇「ジャンニ・スキッキ」より「私のお父さん」(プッチーニ)

ジャンニ・スキッキの娘・ラウレツカが唄います。「お父様あの方と結婚させて！も！駄目だなんて言ったら川に身投げしちゃうから！」なんてお父さんをおどかしてたり…。この歌はとってもわかりやすいですが、真澄さんはイタリア語を正確にラウレツカの心情をたっぷりと語ってくれました。私たちは音楽の心から愛をこめて歌う真澄さんとその歌が大好きです。

ラプソディ・イン・ブルー(ガーシュイン)

オーケストラとピアノで世界中の人の心をつかんだラプソディ・イン・ブルー。1924年の初演は、ガーシュイン自身のピアノとジャズバンドによるものだったそうです。ジャズはクラシックよりも格好だと思われていた当時のアメリカ。でもこの曲のおかげで、ジャズは一転してとても好意をもって聴かれるようになったそうです。今日は初演ののちに近い編成でお送りします。ピアノ・ソロは往年の超長・山本梨央です！

序曲「バラの謝肉祭」(オリヴァーティ)

フレーズを保って美しく歌うことがどんなに大切なのか、曲想に応じた奏法

上の変化はどうすればいいの…、この曲はすべて教えてくれるバンドの教科書です。1947年に作曲されて、60年たった今日でもさかんに演奏されている吹奏楽の古典。3年生が受験で休部していた期間に1・2年生が発達した成果を聴いてください。

ラッパ吹きの日(アンダーソン)

これも第3回春コンに引き続きお送りします。3年生ラッパ娘4名は、一昨年はチチタイパの1年生。当時の3年生がこの曲を演奏したことが彼女たちの心に火をつけた。以来、目標は4人で「Bugler's Holiday」を演奏するとのこと！今日はそれが実現します。

76のトロント(ワイルソン)

「ミュージック・マン」というミュージカルに使用されている行進曲。主人公のビル教授がマーチングバンドでパレードをする子供を想像させるために歌った曲だとか。3年トロントの3名が、まるでマーチオムニアのようなこの曲に皆さんを連れて行きます。

チューバ・タイガー・ラグ(デキシーランドジャズバンド)

古いタンダーボルトファンガ、チューバセクションのフィーチャーによって生まれ変わりました。真ん中の部分で吠えるタイガーの役目だけではなく、全編こたわって主役を務めるこのアレンジ！ 専務長とするチューバ隊はあまりの速さに出るはずのない超低音を披露します！

エル・クンバンチエロ(エルナンデス)

日本語訳してみると「太鼓を叩いてお祭り騒ぎをする人々」という意味になります。お祭りの始まりを知らせるのはやはり「太鼓」です！ その太鼓の響きを聞きつけ、どこからか聞こえる叫び声…。さあ！クンバンチエロのサンパと一緒に「お祭り騒ぎをする人々」になりましょう！

千の風になって(新井 満)

この曲を聞いて、思いつくことはありますか？ 例えば失った大切な人の存在やその人の想い…。人それぞれにあると思います。今日はそんな「千の風になって」をコースでお送りします。このステージが大切な人を考えるきっかけとなってくれば、そしてこの歌が皆さまの心に届くのは幸いです。

歌劇「アイダ」より 凱行行進曲(ヴェルディ)

1871年に初演された全4幕から成るオペラです。ファラオ時代のエジプトとエチオピア2つの国に引き裂かれた男女の恋愛を描き、今日でも最も人気のあるオペラの1つです。その中でも最も有名な場面であるエジプト軍が凱行するシーン。3年生はこの行進曲を予練会で合意し、授業でオペラを見て、勝利の行進を思い浮かべて力強く歌いあげることができました。アイダ・トランパットが誇らしく響き返ります！